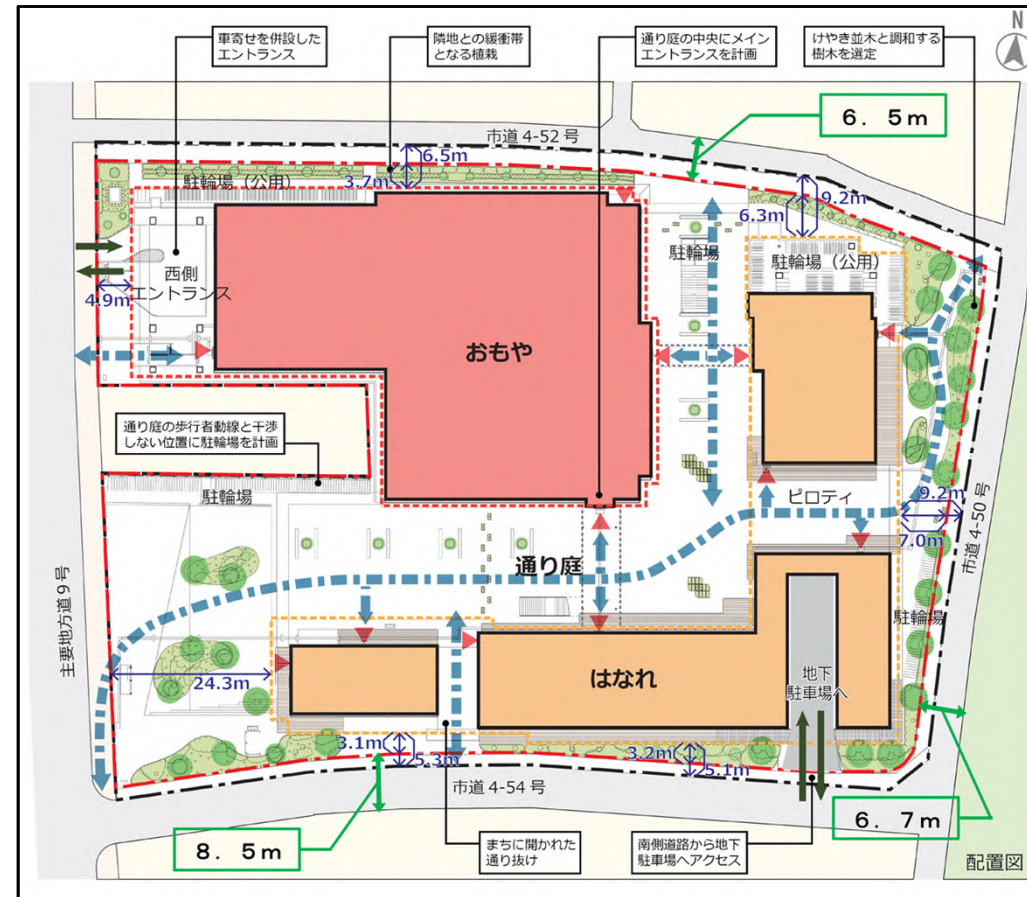


【建物概要】

敷地面積	11,064.85㎡
用途	事務所、図書館、店舗、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造)
階数	地上6階 地下1階
最高高さ	30.14m
延べ面積	32,362.67㎡
建築面積	6,349.29㎡

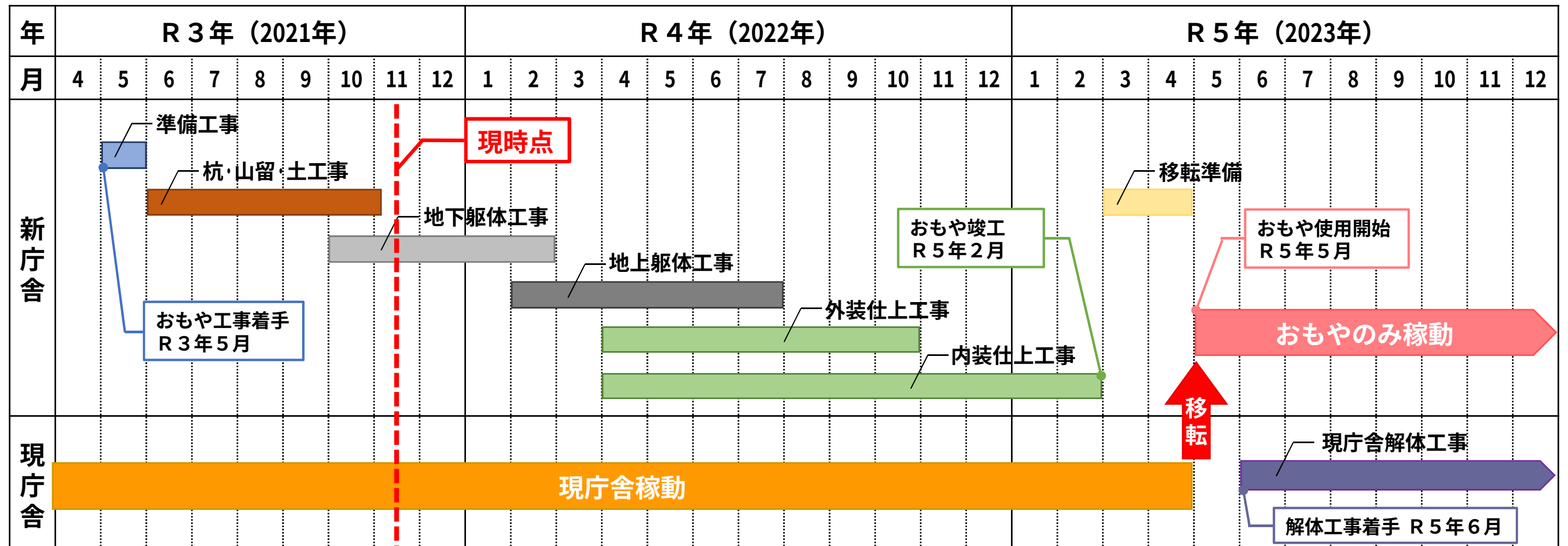
【配置計画】



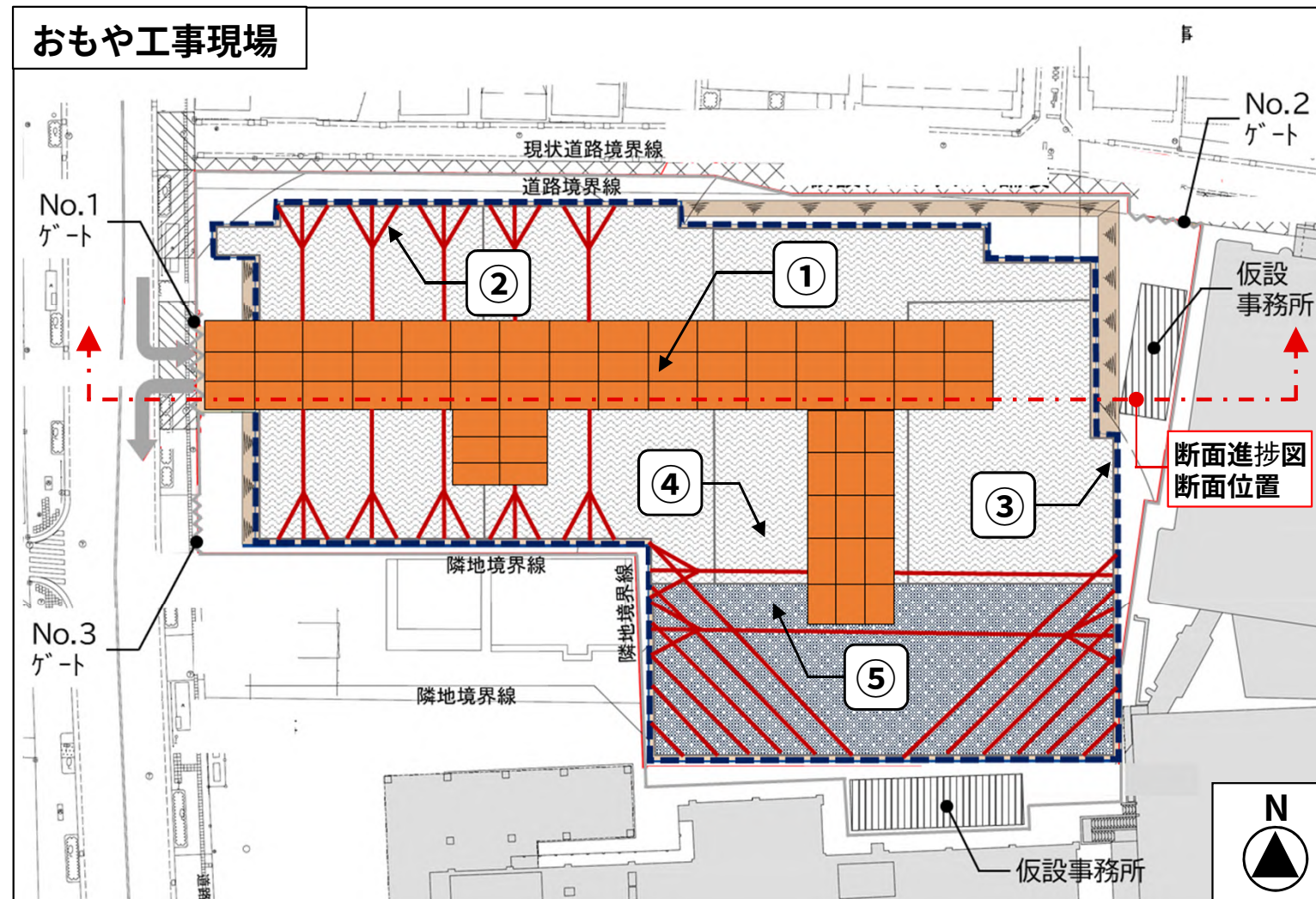
【航空写真（R3.10月末時点）】



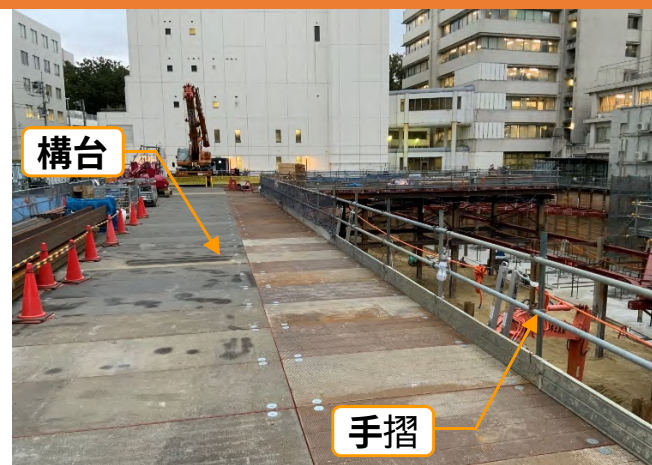
【工程表】



【平面進捗図】



① 構台架設工事



- ・「構台」とは、工事車両を現場内に乗り入れるための仮設の作業台です。
- ・大きさは幅8m、長さ65mで、約2 t/m²の重量にも耐えられるように頑丈につくられています。
- ・構台には転落防止用の「手摺」を設け、作業員の安全を確保しています。

② 切梁 (きりばり) 架設工事



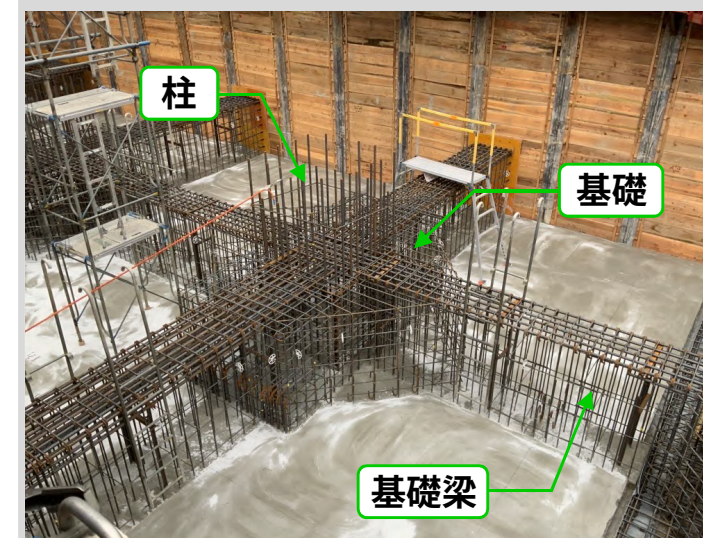
- ・「鉄骨」を組み立てるとともに、「油圧ジャッキ」で土留壁に圧力をかけて、周囲の地盤の安全を確保しています。
- ・毎日の点検や測定器による土圧の測定など、日々の安全管理に努めています。

③ 山留 (やまどめ) 工事



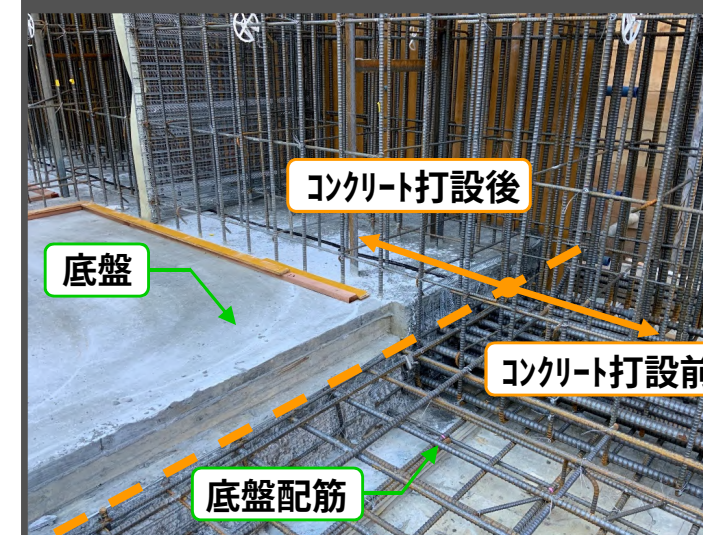
- ・「山留工事」とは地下工事中に周辺の地盤が崩れないようにするための土留壁を設置する工事です。
- ・支えとなる「鉄骨(H鋼)」を地中深くに差込み、その間に「矢板 (やいた)」と呼ばれる木板を敷き入れて、高さ約7mの土留壁を作っています。

④ 基礎配筋工事



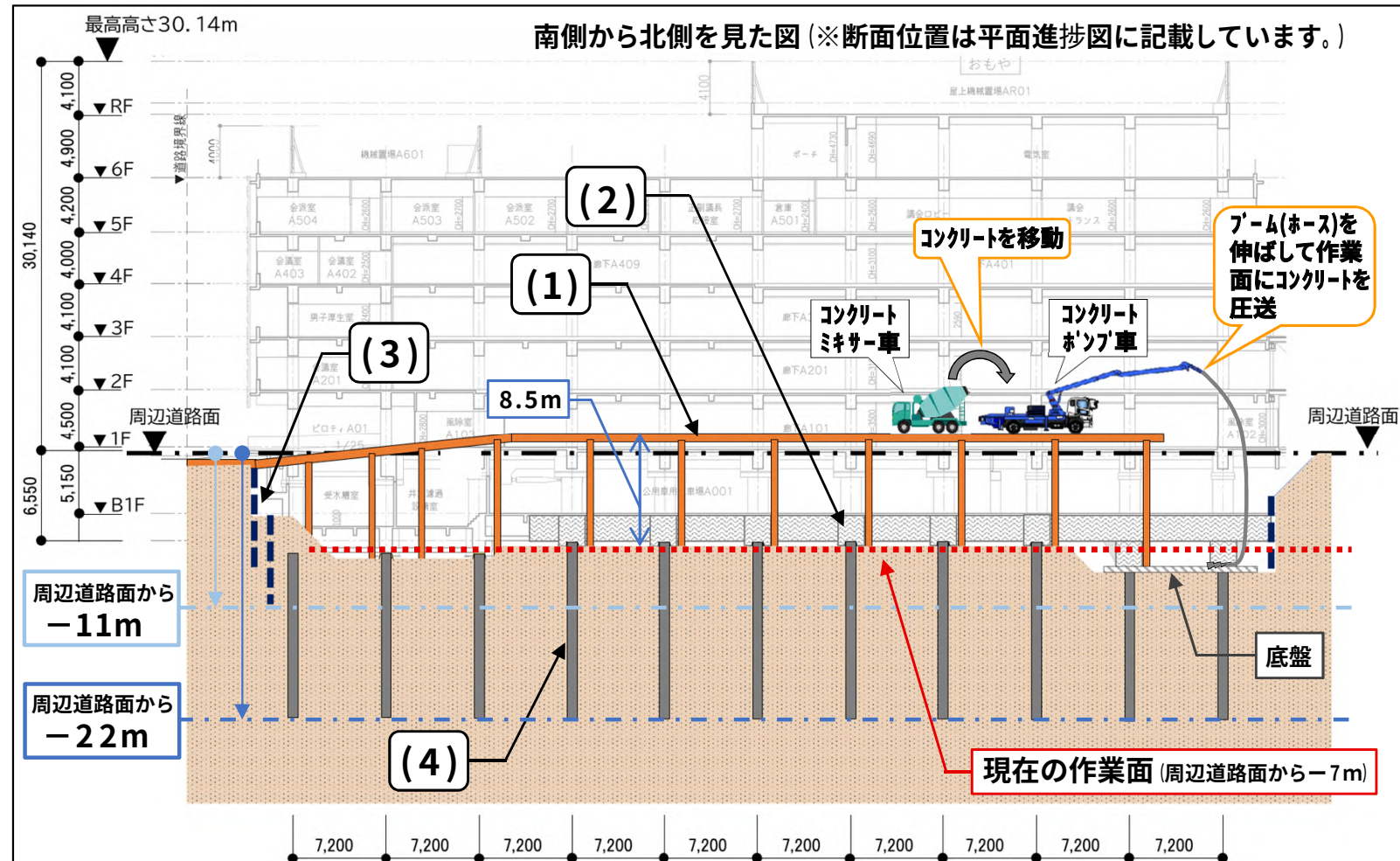
- ・「基礎」、「柱」、「基礎梁」の鉄筋組立作業を行っています。鉄筋はそれぞれ径、長さ、強度、形が違っており、それらを一本一本手作業で組み立てています。
- ・配筋作業完了後には、木板を使用して、コンクリートを流し込むための型枠を組み立てていきます。

⑤ 底盤コンクリート工事



- ・基礎配筋完了後に、建物躯体の最下部となる「底盤」と呼ばれる部位のコンクリートを先行して打設します。
- ・コンクリートは1～5工区に分けて打設しており、それぞれの工区で約200m³（小学校プールで0.6杯分）のコンクリートを1日で打設します。

【断面進捗図】

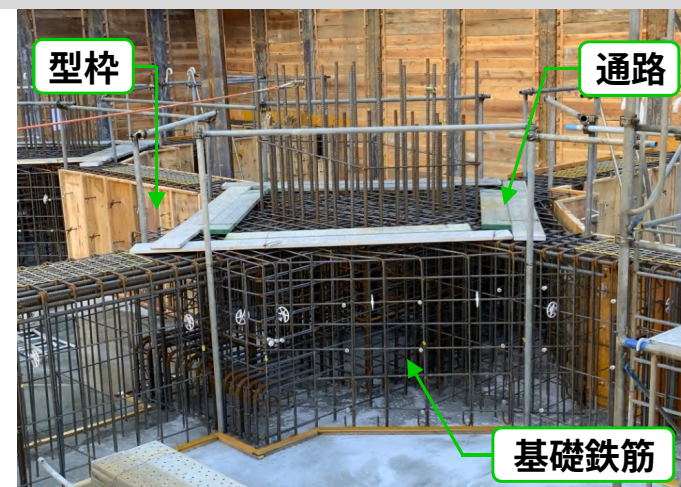


(1) 構台架設工事



- ・構台上に「ラフタークレーン」を配置し、資材等の揚重作業をしています。
- ・コンクリート打設時には、構台上からポンプ車を用いて、作業面までコンクリートを圧送しています。また、コンクリートミキサー車は、多い時には1日あたり約70台を搬入しています。

(2) 基礎躯体工事



- ・建物の土台となる基礎をつくるため、鉄筋の配筋作業と、コンクリート打設のための型枠工事を実施しています。組み立てた鉄筋の上には作業員が歩行するための通路を整備しています。
- ・基礎は、大きいもので高さ2.3m、幅4.8mの大きさがあります。

(3) 山留（やまどめ）工事



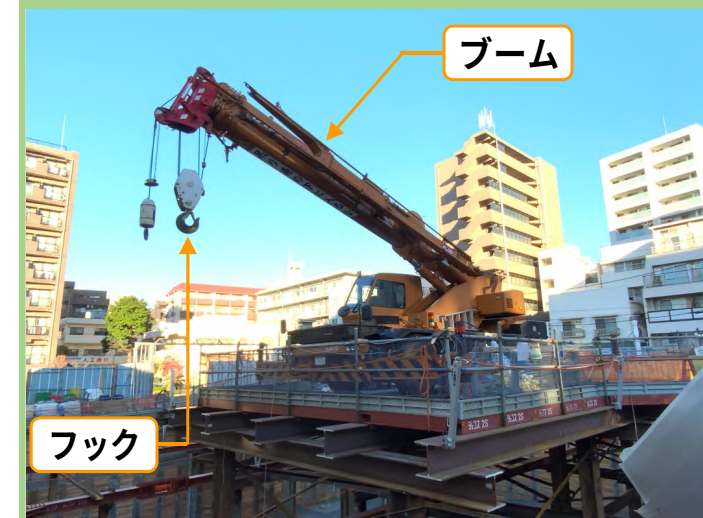
- ・「矢板（やいた）」一枚の長さは約1.5m、厚みは3～6mmで、スギ材を使用しています。
- ・「鉄骨（H鋼）」は、周辺道路路面から約11mの深さまで埋め込まれています。また、地盤を抑える役割を果たす「矢板」は、一枚ずつ作業員の手作業で設置されたものです。

(4) 既製杭打設工事



- ・建物基礎の下に、長さ約15mの「既製杭（コンクリート製）」が埋め込まれています。
- ・重機に設置したオーガスクリーパーで、地中深く掘り下げて、掘削した穴に既製杭を落としこんでいます。「おもや」工事では、78本の既製杭を設置しました。

重機の紹介：ラフタークレーン



- ・資材の揚重作業に用いる重機で、当現場では車両総重量約25t（最大ブーム長さ31m）のものを使用しています。
- ・「ブーム」を伸縮、旋回するとともに、「フック」を昇降して、構台から8.5m下にある作業面まで、鉄筋等の資機材を吊り下ろしています。